

きけわだつみのこえ

# 第21回 上原良司を偲ぶ集い

上原良司が陸軍特別攻撃隊第56振武隊員として知覧より沖縄に向け飛び立ってから81年。良司が未来の我々に向け残したメッセージをつなぐ会は、今年で21回目を迎えます。本年は、劇団四季創設者の一人で同劇団を日本を代表するミュージカル劇団として成長させた浅利慶太氏が、「この芝居を見て二度と戦争は起こしてはならないと学んでほしい」と願い、作・演出を手がけた「ミュージカル李香蘭」の映像鑑賞会を開催します。この舞台には、上原良司役の特攻兵も登場。浅利氏は大町の別荘に来るたび、「良司の丘」に足を運んで良司を偲んでいたといいます。多くの皆さまのご来場をお待ちします。



令和8年 6月14日 (日)

## 第一部：平和祈念

時間：13:00～13:15

場所：池田町『良司の丘』

- ・良司愛唱歌『谷間の灯』合唱
- ・良司の碑に献花 (終了後 創造館に移動)

## 第二部：上原良司を偲ぶ集い

時間：13:30～16:15 終演予定

場所：池田町創造館

- ・挨拶「灯を守る会」会長 師岡昭二  
池田町長 矢口稔 県議 宮澤敏文
- ・池田町「平和宣言」朗読 池田町
- ・「上原良司と浅利慶太」(お話)  
劇団四季 浅利慶太記念館 浅野貢一館長
- ・「李香蘭」映像上映 (約140分)

## 映像上映会

劇団四季

企画・構成・台本・演出 浅利慶太

「李香蘭 私の半生」新潮社刊より

作曲 三木たかし

振付 山田卓

装置 土屋茂昭

照明 沢田祐二

衣裳 森 英恵・李 艶萍

李香蘭 野村玲子(浅利演出事務所代表)

ミュージカル  
李香蘭



入場無料 (事前申し込み不要) ※先着順にお席へご案内となります。定員に達し次第受付終了 (ご入場は中学生以上)

主催：上原良司の灯を守る会 共催：池田町

後援：池田町教育委員会 池田町観光協会 池田町立美術館友の会 安曇野市 わだつみのこえ80年の会  
信濃毎日新聞社 市民タイムス 大糸タイムス MGプレス 朝日新聞長野総局 読売新聞松本支局 中日新聞社  
協力：浅利演出事務所 浅利慶太記念館(大町市) MVSC(ミュージックボランティア・サポーターズクラブ)

# 戦後81年 私たちが忘れてはいけない 歴史がここにある

類まれな美貌と歌唱力に恵まれ、中国語が堪能だったことから、日本人でありながら中国人の歌姫として一世を風靡した李香蘭。その人気を知らぬ間に日本軍の宣伝工作に利用された彼女は、終戦後、中国で祖国反逆罪を問われ裁判にかけられることに。

純粋に平和を願いながらも、二つの国の間で運命を引き裂かれた実在の女性、山口淑子さんの半生を描き、昭和の歴史と戦争の実像を浮かび上がらせる『ミュージカル李香蘭』。美しいメロディーと迫力あるダンスが心を震わせ、劇的な時代の声リアルに胸に迫ります。「平和であり続けるためには、戦争の悲劇を実感することが必要。この芝居を観て二度と戦争は起こしてはならないと学んでほしい」と語り続けた演出家・浅利慶太。その思いを受け継ぎ、池田町「良司の丘」より、平和への祈りを込めてお届けします。



浅利慶太氏

本作品は、浅利慶太氏が、日中戦争から太平洋戦争までの史実を丹念に調べ、大きな歴史の流れに翻弄されたアジアの歌姫李香蘭の数奇な運命を浮き彫りにしたミュージカル。1人の女性の半生を描くことで、「昭和」というひとつの時代を浮き彫りにする公演への反響は大変大きく、感動の声に押され再演を繰り返し、国内に留まらず中国など海外でも公演。次第に忘れ去られてゆきつつある戦争でどのようなことが人々の身に起きたのか。新しい時代を担う皆さんにこの作品を観ていただくことで、戦争と平和を語り継ぎたい。本ミュージカルには上原良司役も登場し、「所感」を語る。浅利慶太氏（良司は慶応義塾大学の先輩）は生前、何度も池田町にある「上原良司の丘」を訪れ、良司役を演じる若者たちと慰霊を重ねていた。



(浅利演出事務所公演より)

浅利慶太記念館館長 浅野貢一氏（記念館住所：大町市平1955-205 本年度4月25日開館、月曜日休館）浅利慶太氏が大町市の別荘に滞在中、浅野館長は秘書役として浅利氏の活動をサポート。池田町の「良司の丘」訪問の際は、いつもドライバー役としてご案内した。浅利氏が語っていた平和への想い、そして良司への思いをお聞きする。

## 上原良司について

1922(大正11)年9月17日池田町生まれ。1943(昭和18)年10月、慶応義塾大学経済学部進学。1943年10月、大学生に与えられていた徴兵猶予停止により大学繰り上げ卒業となり学徒出陣。同12月松本の陸軍東部第50連隊に入営。飛行訓練の後、1945年5月11日早朝、特別攻撃隊第56振武隊員として知覧飛行場より沖縄に向け飛び立ち戦死。享年22歳。出撃前夜「所感」を遺し「きけわだつみのこえ」巻頭に掲載される。上原家



長男・良晴は昭和20年9月ビルマの捕虜収容所で戦病死（陸軍軍医）享年30歳。

次男・龍男は昭和18年10月豪州東沖にて潜水艦と共に海に沈む（海軍軍医）享年26歳。